

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区名	浪速区
学校名	大阪市立塩草立葉小学校
学校長名	竹内 幸延

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）
 - ・主として「知識」に関する問題（A問題）
 - ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- (2) 質問紙調査
 - ・児童に対する調査
 - ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全生徒
- ・大阪市立塩草立葉小学校では、第6学年 43名

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

今年度の平均正答率は、国語Bと算数B（主として活用に関する区分）問題において、大阪市平均を約1ポイント上回った。また、算数A（主として知識に関する区分）問題において、大阪市平均を約8ポイント、全国平均を約6ポイント上回った。国語A問題では、大阪市平均を約4ポイント下回った。いずれの問題においても、全国平均との差は年々縮んでおり、特に算数A問題の平均正答率は、過去3年間で初めて全国平均を上回った。

また、問題の答えをまったく書けない「無解答率」の平均割合は、すべての問題において、大阪市および全国の平均を大きく下回っており、ねばり強く問題に取り組む様子が見られる。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

A問題の「読むこと」領域の正答率は全国平均とほぼ並んでおり、B問題の「書くこと」領域では、全国平均を約2ポイント上回っている。しかし、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域は全国平均を9ポイント下回っており、低学年の段階から計画的に昔話やことわざ、慣用句、故事成語、古典などに親しむ機会を設ける必要がある。

〔算数〕

A問題の「数と計算」「量と測定」領域では、正答率がともに全国平均を7～11ポイント上回っている。しかし、B問題では、「数と計算」「量と測定」領域の正答率がともに全国平均を2～3ポイント下回っており、習熟度別少人数授業の充実などにより、学習活動を通じて獲得した知識をさまざまな場面で活用する力をさらに伸ばす必要がある。

質問紙調査より

〔児童質問紙調査〕

肯定的な回答の割合が特に高い項目は、「将来の夢や目標をもっていますか」「家で、学校の授業の予習をしていますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくださいか」「はじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「国語の勉強は好きですか」「読書は好きですか」「算数の勉強は好きですか」である。今後も、家庭、地域と連携して望ましい学習習慣や基本的な生活習慣を育てていく。

〔学校質問紙調査〕

授業における目標（めあて・ねらい）やまとめの明確化、学習規律の徹底、校内研修の推進など、わかる授業と指導力向上をめざして取り組んできた。今後も、さらに充実させていく。

今後の取組

国語、算数ともに、平均正答率は一部で大阪市および全国平均を上回っており、全体としても全国平均との差は縮小傾向にある。国語や算数が好きという児童が増加し、家で授業の予習をする割合も全国平均を大幅に上回るなど、帰宅後の学習習慣が身につけてきている。今後も、学校と家庭、地域がさらに協力し合うことで、さらなる学力の向上を図りたい。

一方で、「予習をまったく（あまり）しない」という児童も約3割近くおり、習熟度別少人数授業やICTを活用した授業などを工夫していく。また、将来の夢や目標を持たずにいる児童が1割近くいるため、キャリア教育など全教育活動を通じて自尊感情を高めていきたい。

【 全体の概要 】

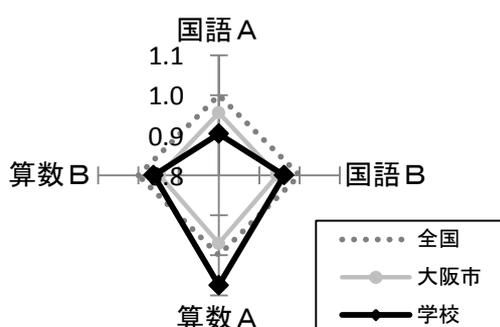
平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	65.9	55.6	83.4	45.4
大阪市	69.7	54.6	75.3	44.7
全国	72.9	57.8	77.6	47.2

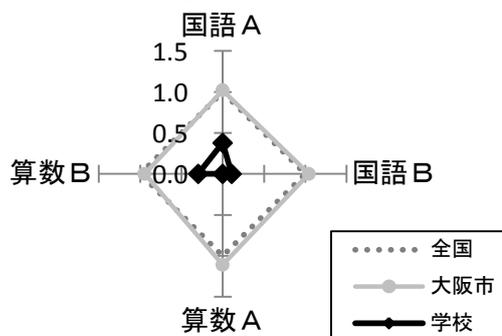
平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	2.0	0.5	0.0	2.2
大阪市	5.4	4.8	2.0	7.0
全国	5.3	4.6	1.8	7.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



【 国語 】

A 問題

平均正答率(%)

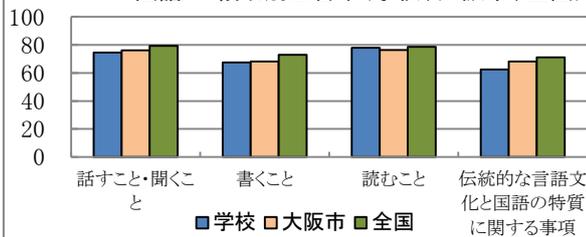
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
話すこと・聞くこと	1	74.4	76.1	79.2	
書くこと	2	67.4	68.1	72.8	
読むこと	2	77.9	76.2	78.5	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	10	62.3	68.0	71.1	

B 問題

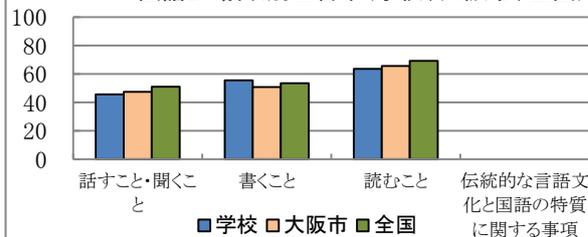
平均正答率(%)

学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
話すこと・聞くこと	3	45.7	47.3	51.1	
書くこと	6	55.4	50.7	53.4	
読むこと	3	63.6	65.6	69.3	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—	—	

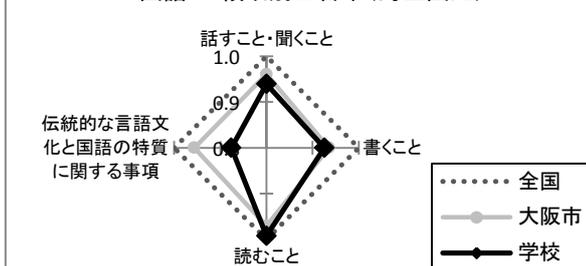
国語A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



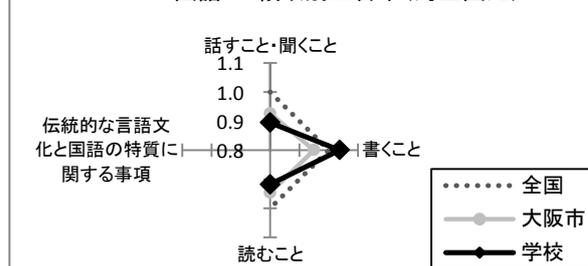
国語B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語A 領域別正答率(対全国比)



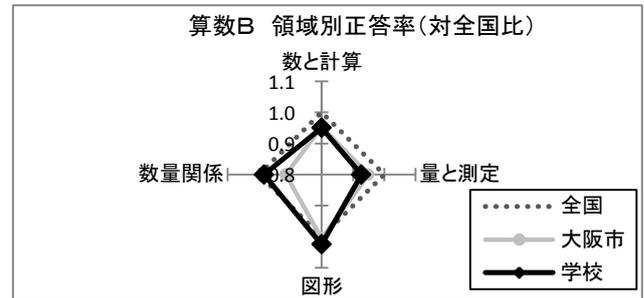
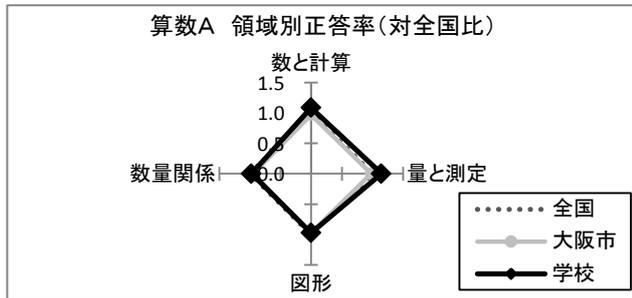
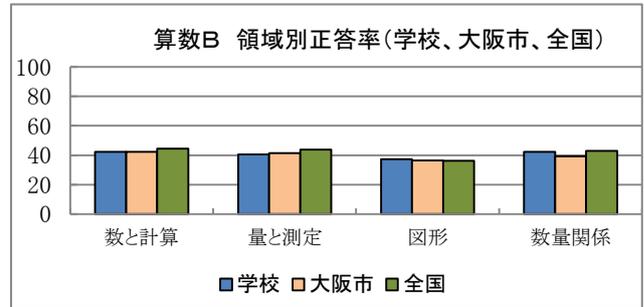
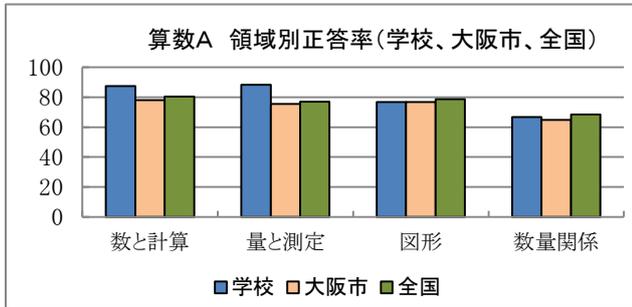
国語B 領域別正答率(対全国比)



【 算 数 】

A 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	10	87.4	78.1	80.5
	量と測定	2	88.4	75.6	77.0
	図形	2	76.7	76.8	78.8
	数量関係	3	66.7	64.8	68.5

B 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	6	42.2	42.3	44.4
	量と測定	5	40.5	41.5	43.7
	図形	3	37.2	36.5	36.3
	数量関係	6	42.2	39.2	42.9



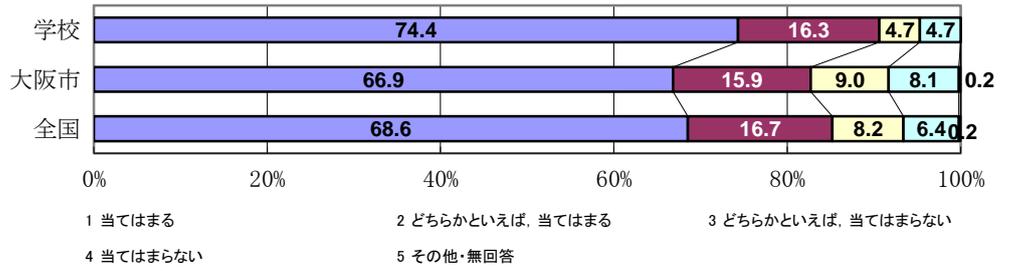
児童質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9

質問番号
質問事項

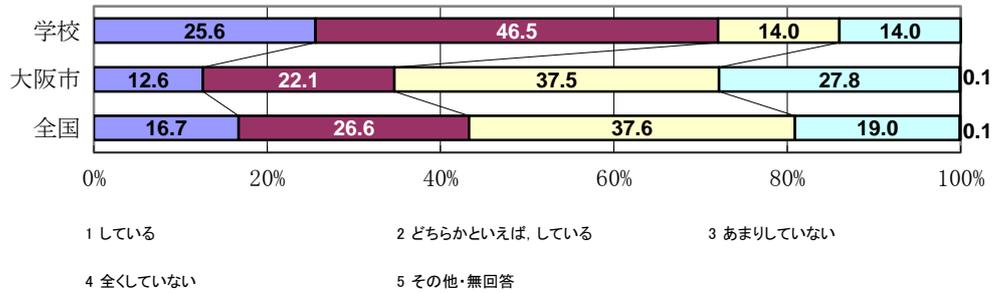
9

将来の夢や目標を持っていますか



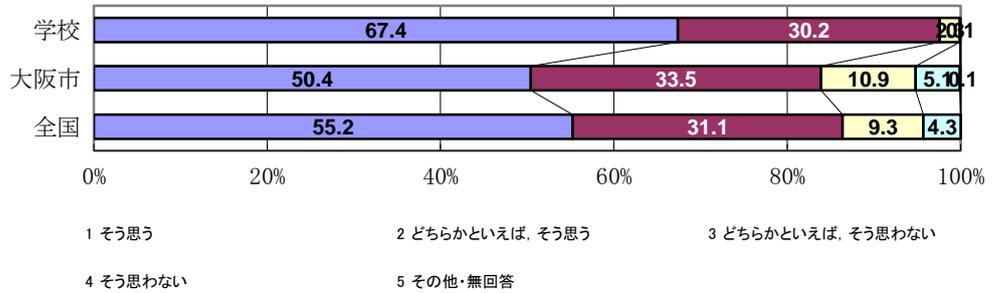
23

家で、学校の授業の予習をしていますか



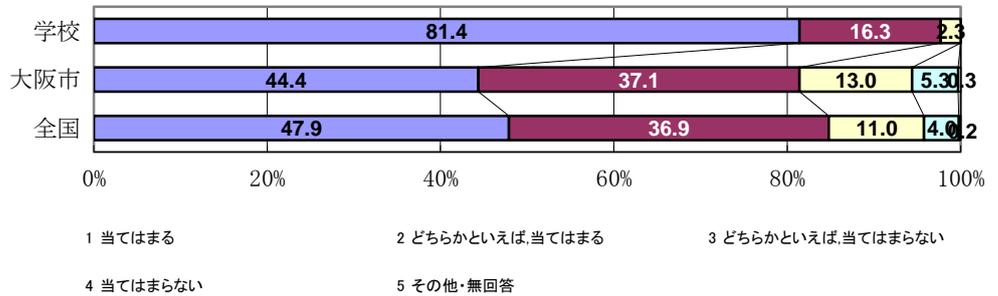
26

学校に行くのは楽しいと思えますか



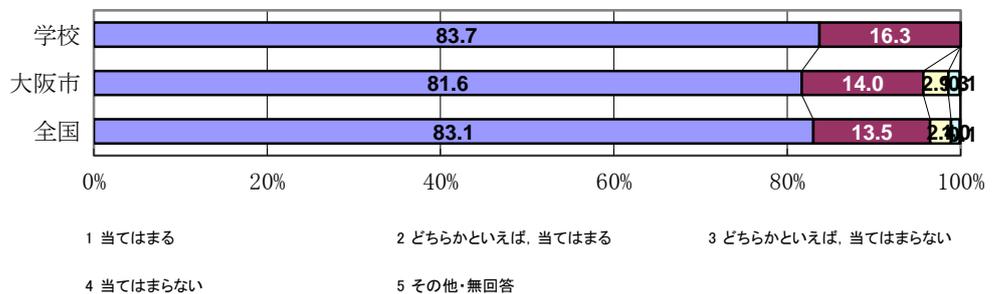
33

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくださいますか



42

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



学校質問紙より

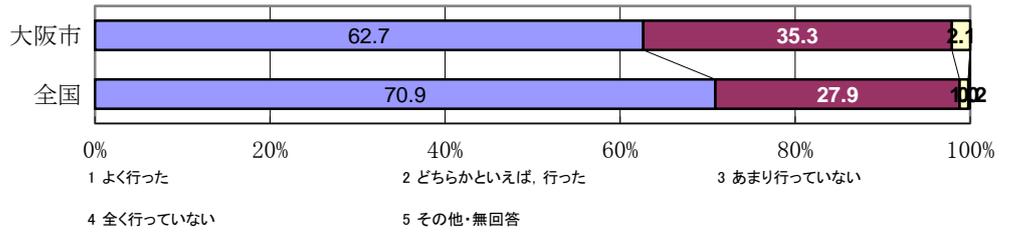
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

質問番号
質問事項

36

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業の中で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか

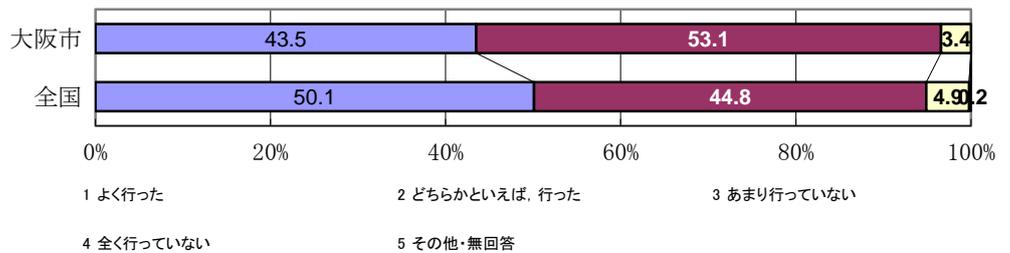
学校「よく行った」を選択



37

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか

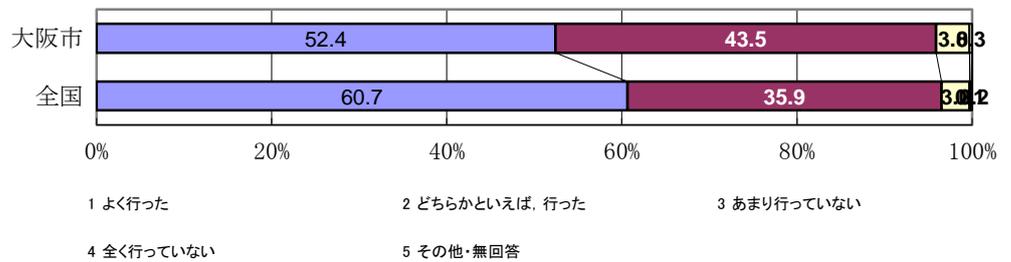
学校「よく行った」を選択



51

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話す、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか

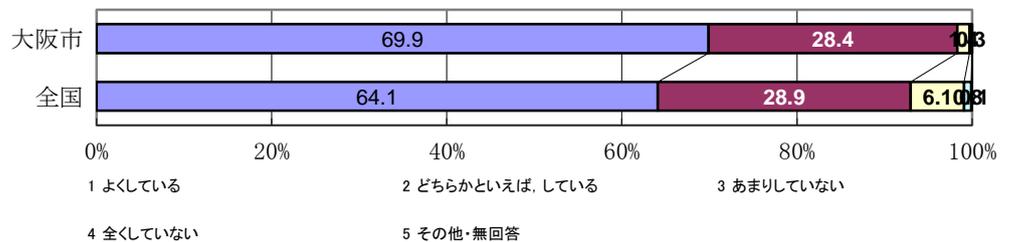
学校「よく行った」を選択



102

学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか

学校「よくしている」を選択



109

授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか

学校「年間15回以上」を選択

